

令和3年度 三和地域協議会事業計画

1, はじめに

三和地域ではこの間、新たにスーパーマーケットのオープンや、新たな歯科医院が開業するなど、地域の生活機能の改善がすすみました。菟原下の定住促進住宅用地にも2軒の新しい住宅が建ち、工業団地には引き続き新しい工場の立地が続いています。

ところが、地域医療の基幹施設である三和診療所の休診が続き、三和荘の今後についても不透明な状況が続いています。

これらの地域にとっての明るい兆しを生かしながら、今こそ地域の知恵と力を結集し、当面の困難を打開して三和地域の未来を切り開いていかななくてはなりません。

このようななかで7年目を迎える三和地域協議会は、生活交通や買い物環境の確保、子育て支援、定住促進などを中心として、住民の生活を守る活動に取り組んで来ました。本年度は新たに「三和地域暮らしサポート事業」(愛称:みわひまわりサポート)を立ち上げるとともに、3つの常設部会の活動をさらに活発化し、新たなテーマにも取り組んでいきたいと考えます。

生活に必要な施設を守りながら、「みわひまわりライド」と「みわひまわりサポート」の2事業を有効に活用し、引き続き「安心して暮らせる三和地域」「子育て支援が充実した三和地域」「新たな活力が生まれる三和地域」などをめざして、まちづくり活動を進めていきたいと考えています。

生活に潤いをもたらす事業として、令和元年度に公立大生から提案のあったフォトコンテストを、「三和ふるさと写真コンテスト」(愛称:CoCo ショット(ここ!三和!))の名称で実施します。

また、旧小学校の跡地活用などの課題や、世代を超えた交流ネットワークの形成などについても、行政や大学、企業、住民と協働して様々な活動を進めていきたいと考えています。

2, 全体事業

新たに取り組む「三和地域暮らしサポート事業」と「三和ふるさと写真コンテスト」を成功させるとともに、福知山公立大学との連携をさらに生かす取り組み、地域福祉政策にどう関わっていくのか、工場立地やスーパー立地などを地域振興にどう結びつけていくのか、若者の様々な分野での活動支援などの課題に、地域の諸団体、諸活動と共同することを重点に取り組みます。

さらに、地域の定着した行事となった「みわこどもまつり」のほか、地域全体で取り組む「三和ふれあいフェスティバル」「みわ夏まつり」等の地域振興イベントについては、住民活動のよりどころとなる行事のこれからのあり方を考えながら、新型コロナウイルス感染症への対応状況を踏まえて実施していきたく思います。

部会活動としては、「地域活力部会」、「生活基盤部会」で新たな課題に取り組むとともに、「交流・連携部会」の組織と活動を確立し、引き続き大きな課題である定住促進の事

業についても、常任委員会・事務局を中心に各自治会や住民の皆さんと協力し、市と連携して進めます。

3、三和地域公共交通空白地有償運送事業（愛称「みわ ひまわり ライド」）

運行5年目を迎える「みわ ひまわり ライド」は、三和地域住民の生活基盤を支える移動交通手段として重要な役割を担っており、PR広報において課題となっている高齢者等への周知については継続して行うとともに、地域内の実情に詳しい民生児童委員の皆さんとの情報共有等連携が必要となっています。今後は、新規の会員登録者や利用者数、運行便数の大きな増加は見込めないと予測されることから、確固たる事務局体制による運行を維持していくために必要な事務所機能の維持・地域住民の理解と協力・行政の適切な支援が継続できるよう地域内及び行政機関に働きかけていきます。

また、現在の登録運転手19人のうち約半数の10人が70歳を超えており、次の運送事業登録更新時期（令和4年9月）を見通して、5名程度の運転手の補充を行っていきます。

さらに市内の医療機関を受診する利用者の中には、JRバスへの乗り継ぎによる交通費が大きな負担となっている事例もあり、「敬老乗車券」の適用など利用しやすい環境整備や本年度も継続する市のモデル実証事業の検証により制度化される補助支援の内容などについて市への要望を継続していきます。

4、三和地域暮らしサポート事業（愛称「みわ ひまわり サポート」）

三和地域の人たちが何らかの理由で助けを必要としているとき、既存の制度（介護保険等）でカバーできない分野を、住民の助け合い・支え合いのしくみによって援助し、地域で暮らし続けていくことが可能になる事業が求められています。

三和地域協議会は、地域内の自治会・住民、民生児童委員、社会福祉協議会等の福祉団体・事業者と連携し、すべての住民が安心して暮らし続けることができるよう支援するため、「三和地域暮らしサポート事業」（愛称「みわひまわりサポート」）を実施します。

5、福知山公立大学連携事業

福知山公立大学がすすめる「地域密着型授業」として、亀井教授・軍司教授クラスの1回生10数人が、1年間三和をフィールドに学習します。

本年度は年度当初から地域学習が取り組まれる予定であり、昨年までのテーマをベースに新たな分野も加え、現地見学を行い、関係者が講師として講義と討論をする形式で取り組みます。

1月には、1年間の学習成果を分野別に発表する機会も設けたいと考えます。

この取り組みを地域の元気に結びつけられるよう、住民の皆さんのご協力をお願いします。

6、空き家対策・定住促進事業

令和3年度も、当町の移住希望者への空き家の案内、調整、また空き家情報バンクへ

の物件登録の案内やお手伝いをしていきたいと思えます。空き家の内覧・状況確認の際には、自治会長（組長）に事前連絡しご理解いただいた上で、市と連携しながら行っていきます。また、地域の方にもご協力いただきながら移住後のサポートもできればと思っています。「移住者交流会」については、市の各地域協議会とも情報交換し、移住者同士のネットワークを広げるお手伝いができればと考えています。

7、常任委員会

三和地域協議会の活動全体を考え執行していく機関として定期的に行き、地域の求める課題に敏速かつ的確に対応できるよう努めます。また、行政機関や公立大学、各種団体との連携を密にし、効果的で効率的な事業運営をめざします。

8、部会活動

◎ 令和3年度設置常設部会

令和2年度と同様とします。

- ① 地域活力部会
- ② 生活基盤部会
- ③ 交流・連携部会

◎ 地域活力部会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、屋内に子どもたちが大勢集まる「みわこどもまつり」は今年度も開催が難しいと考えています。そこで、屋外のみを使ったイベントとして、親子で楽しめるウォークラリーの開催を予定しています。地域交流カフェ「みわふれあいカフェ」は引き続き毎週金曜日に開催します。また、三和音頭については、イベントが開催されれば出演したり、子どもたちに引き続き教えたりすることで、地域への浸透を図ります。さらに、子育て講演会も開催する予定です。

○みわこどもまつり

たくさんの親子連れがお越しくくださるイベントのため、今年度も開催は難しいですが、何もしないのはあまりにも寂しいので、趣向を変え、親子で楽しめるウォークラリーを5月に開催予定です。密を避けるため定員を決めますが、ミニこどもまつりのような体験をしてもらえたらと計画をすすめています。

○みわふれあいカフェ

冬季休業を終え、令和3年4月から再開しています。今年度も月1回はコーヒー屋さんのオリジナルコーヒーを出すほか、ふれあいカフェならではの活動を模索していきます。

○三和音頭の普及

町内イベントに参加し、依頼いただければ踊りを教えに行くなど、三和音頭の普及に努めます。

○講演会等の開催

冬季の予定で講演会の開催を検討中です。

○ラジオ番組での広報活動

今年度も継続してラジオ番組での三和地域のアピール活動を行っていく予定です。

◎ 生活基盤部会

令和3年度は、これまで研究テーマにしてきた「地域福祉の在り方」に結論として、夏ごろには住民による助け合いの組織を立ち上げたいと、計画しています。

三和地域の高齢化は深刻で、核家族化の中、独り暮らしも増えています。肩を寄せ、助け合ってきたご近所さんも高齢化に勝てず福祉施設に移るなどして、いつの間にか減り、住み慣れたところで暮らし続けることが年々、難しくなっています。それぞれ福知山市や市社会福祉協議会などの協力を得て進めますが、何より住民の皆様の支援が欠かせません。だれにも訪れる老後です。心安らぐ暮らしが三和で将来にわたり続けられるように、組織への参加等、ご協力をお願いします。

新年度の部会活動は、市バスやJRバス、みわひまわりライドや福祉有償運送、各福祉施設や医療機関の送迎バス、スクールバスなど、それぞれ単独で運営されている地域内の移動手段について、より効率的で有機的な連携ができるのではないかという視点で、研究を進めたいと考えています。

◎ 交流・連携部会

前年度、福知山公立大学から提案のあった仮称「三和フォトコンテスト」事業に向けて、学生、先生の皆さんと実施要項、スケジュール等について協議し、「CoCo ショット（ここ！三和！）」-三和ふるさと写真コンテスト-と、名称、要項についても決定しました。募集に向けての準備を進めます。

また、「持続可能な開発目標」として国際的な目標に定められているSDGs（エスディージーズ）、そのうちの1つの「住み続けられるまちづくり」も新たな課題として取り組んでいきます。具体的には下記の事例が挙げられています。災害に強い、安全に生活ができる社会的弱者への配慮、公共交通機関の整備拡大、人と人とのつながりを強化など・・・。

「住みやすさ」「暮らしやすさ」は人によって、また家族構成やその人の置かれている状況によって違い、変わっていきます。

今後も三和地域のみなさん、福知山公立大学、三和工業団地立地企業、移住者の皆様そして、三和地域協議会事務局、他部会との更なる連携を深め活動をしていきたいと考えています。

9、地域住民活動支援事業

さまざまな地域振興事業や、三和地域の維持存続を図り暮らす人が元気で過ごせるための活動をする団体や地域を支援します。また、地域活動を始めたいという人の相談をうけたり、各種の支援制度などについてアドバイスし、住民活動の活発化を図ります。

(1) 三和荘存続と三和診療所再開に向けての住民要望について

三和荘の存続に向けての活動を、「交流拠点施設『三和荘』存続住民会議」に地域住民の総意を結集して、福知山市との協議をすすめます。あわせて住民が三和荘を支え、持続させていくための活動についても支援していきます。

また、現在休診中の三和診療所の早期再開について、自治会長会等の諸団体と協力して、市や医療機関に対して要望していきたいと考えています。

(2) 地域住民組織との共同事業について

○みわ夏まつりの開催

三和の夏の風物詩として毎年開催している「みわ夏まつり」の実行委員会事務をNPO丹波・みわと分担し、コロナ禍での開催方法についても協議していきたいと考えています。

(3) 一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社福知山地域本部三和支部事務局について（福知山観光協会 三和支部事務局）

春・秋のハイキングや総会、理事会の開催、三和ぐるっとマップの普及活動、観光情報の発信など引き続き行事と組織運営の責任を担います。

(4) 三和地域福祉推進協議会事業について

継続して、研修会や講演会、高齢者の見守り等の活動を計画し、地域で生活する上での様々な課題に住民自らが関心を持ち、地域づくりに主体的に関わっていくための「きっかけ」となるよう各団体で構成する「代表者会」で協議のうえ実施します。

10、市役所三和支所委任事業について

(1) 三和ふれあいフェスティバルの開催

三和地域で開催される最大の地域交流イベントである「三和ふれあいフェスティバル」の事務局を引き続き担います。コロナ禍でも開催できる方法を模索しながら開催を目指していきたいと考えています。

(2) 三和町自治会長会事務局

三和地域の自治会長の連合組織である三和町自治会長会の事務局として、連絡調整等の事務を実施するとともに、自治会長に対する月2回の刊行物等の配布や、各自治会独自の文書作成の支援等を引き続き実施します。

(3) 無線放送録音受任

三和地域全域をカバーする重要な情報伝達手段である「無線放送」について、そのアナウンス録音を担当し、年間を通して各家庭に情報を届けます。

1 1, 広報紙「みわを元気に」発行、その他の情報発信

定期的に広報紙を発行し、地域における住民活動情報の発信と協議会活動の理解促進に努めます。

また、フェイスブックやホームページを活用し、地域協議会の活動がより「見える」ものになるよう、発信していきたいと思えます。

1 2, その他の事業

その他、三和地域の存続発展と、地域住民の生活改善、福祉向上につながる事業に取り組みます。